

**運動機能をサポート
介護予防にも貢献**



理学療法士
石井 隆太郎さん
川崎医科大学総合医療センター勤務
2018年卒

病気やが、加齢によって運動機能が落ちた人たちに機能維持・回復のためのリハビリテーションを行うのが理学療法士です。体操やウォーキングのように体を動かして筋肉や関節の回復を目指す「運動療法」や、痛みを和らげるために熱や電気などを利用する「物理療法」を行います。近年では、スポーツ選手のけがの

予防や、故障からの復帰を支える存在としても活躍中。また、高齢者の転倒予防のために地域で開催される教室の講師なども務めることで、介護予防の分野にも貢献しています。さらに最近では、新型コロナウイルス感染症の治療を受けている患者さんに、体力回復・肺機能の改善のための理学療法を行っています。

「その人らしい生活」の獲得を目指して
こころとからだを支援



作業療法士
神野 俊克さん
川崎医科大学附属病院勤務
2014年卒

作業療法士は、身体や精神に障害を抱えたり、高齢化のために体が自由になつたりした患者さんに対し、「その人らしい生活」を送れるよう治療・指導・援助を行います。ここで言う「作業」とは、食事や着替え、趣味や仕事など、日常生活におけるすべての活動を指します。たとえば、半身に麻痺^{*}を負った患者さんが、再び自分で食事を楽しめるように、痺した手や麻痺をしていないもう一方の手で、箸や食器を扱う練習を行います。患者さんによって望む目標は異なりますから、患者さんやご家族と目標を共有しながらリハビリテーションを進めます。患者さんが望む生活ができるように、作業療法土はこことからだを支援します。

理学療法学科

患者さんの運動機能の回復に加えて、生活の自立や社会参加まで支援できるような、知識・技術と人間性を兼ね備えた理学療法士を育てています。本学科の特長は、早期から臨床現場に触れる機会が多いこと。臨床見学は1年次から始まりま

す。さらに3年次には、教員が担当している川崎医科大学附属病院の患者さんの協力を得て、評価から治療までの過程を経験できます。そして4年次には、提携している学外の病院や施設で臨床実習を行い、知識と技術を定着させます。乳幼児から高齢者までサポートできるよう、柔軟な問題解決能力とコミュニケーション能力を備えた人材を養成します。

作業療法学科

全学年で、川崎医科大学附属病院での実習を行います。また医療福祉系総合大学という強みを活かして、理学療法学科や医療福祉学科、臨床心理学科と合同で多職種連携の講義・演習を開講しています。

さらに本学科は、全国屈指の教員数を誇り、1学年につき2名の学年担任が卒業まで責任を持って指導する担任制度を設けています。これらにより、毎年ほぼ100%の国家試験合格率を誇っています。また、就職率も開學以来100%で、求人倍率は本学の全学科の中でもトップレベルです。高い目的意識と探究心を持った、作業療法の発展に貢献できる人材育成を行っています。

川崎医療福祉大学創立30年記念特集



企画・制作／山陽新聞社広告本部

「医療福祉」の未来はここから

医療福祉人育成の実力

リハビリテーション学部

川崎医療福祉大学（倉敷市松島288）は、国内初の医療福祉大学として1991年に開学し、現在5学部17学科を有しています。高齢化社会の進展に伴い、リハビリテーション分野のニーズが年々高まっている中、本学リハビリテーション学部では、理学療法、作業療法、言語聴覚療法、視能療法の各領域を専門とする4学科を設け、人々の豊かな生活を支える人材育成に取り組んでいます。



聞く・話すことなどが困難な人々を、指導・訓練などでサポートすることが言語聴覚士の役割。先天的な障害や、脳卒による失語症などを含めた問題を抱える患者さんが対象です。適切に検査・評価、患者さんに合った効果的な対処法を探します。自閉症やダウン症などの原因でコミュニケーションをサポートできる職種です。



言語聴覚士
高橋 紗音さん
川崎医科大学附属病院勤務
2021年卒

「聞く」「話す」「食べる」日々の喜びを支える専門家

言語聴覚療法学科

教員は耳鼻咽喉科医または言語聴覚士の有資格者で、「失語・高次脳機能障害」「発声発語嚥下（えんげ）障害」など、それぞれの専門領域を指導します。講義では、実際の患者さんの動画を見ながら実践的な授業を実施。少人数で集中して学べるよう、講義環境や検査用具

を充実させています。さらに、本学科の大きな特長として、講義と実習を同時期に並行して行い、座学で学んだことを体感して身に付けることができます。また同一学園内の川崎医科大学附属病院や同総合医療センターの臨床現場で、言語聴覚士の活躍を実際に見学。大学病院ならではのさまざまな疾患に対する言語聴覚療法を経験できるのも本学の強みです。

視能訓練士は、訓練や検査を通して眼の健康を守るスペシャリスト。乳幼児から高齢者まで、世代を超えて人々の視る生活を支えます。弱視や斜視に対する視能訓練や、視覚を補助する道具の選定などを手がけ、視能訓練士一人ひとりに合わせた療法治療を立案して実施します。また、視力や屈折、眼圧などを調



視能訓練士
今井 俊裕さん
川崎医科大学総合医療センター勤務
2007年卒

あらゆる世代の
眼の健康を守り
見る生活を支える

視能療法学科

1年次から、隣接する川崎医科大学附属病院で「早期臨床実習学習」を行います。現場の視能訓練士による患者さんへの対応や、検査・訓練の様子を見学。プロフェッショナルへの関心と自覚を高めます。2年次には、視力や眼圧などの基礎的

な視能検査の臨床実践。3年次は、学外の眼科施設で医療従事者とのコミュニケーション能力を磨きます。そして4年次には約3カ月に及ぶ学外病院実習を実施。知識と技術の統合を図り、基本的視能療法の実践力を養います。また本学は、視能訓練士を養成する4年制大学として最も古歴があり、中四国地方では唯一の視能訓練士養成校です。

リハビリテーションの
理念を持ち、
真の医療福祉人に

川崎医療福祉大学
リハビリテーション学部長
國安 勝司

本学部は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士として豊かな人間性と、深い専門的知識、質の高い技術を持ち、社会に貢献できるリハビリテーション専門職を育成することを理念としています。本来リハビリテーションは、その対象となる方々に対しチームアプローチを原則とし、医療・福祉・学校・職場そして地域が一体となり連携しないと成り立つものであり、医療福祉の理念と共に通する部分が多いのです。本学部の教育の目標は高度な専門性と実践力に重点を置いており、川崎医科大学附属病院・総合医療センターをはじめ川崎学園の充実した施設を最大限に活用しています。また本学ではさまざまな職種を育成しているため、学生の時から多職種との連携を意識できることがリハビリテーション専門職としての土台を築くことにつながっています。リハビリテーションの理念を持ち、医療福祉人として活躍できる人材の育成を続けてまいります。

**OPEN 2021
CAMPUS**

8/22(日)

午前の部 9:30~12:00
午後の部 13:00~15:30

最新情報は
WebサイトをCheck!

川崎医療福祉大学 OC



医療福祉学部

- 医療福祉学科
- 臨床心理学科
- 子ども医療福祉学科

保健看護学部

- 保健看護学科

リハビリテーション学部

- 理学療法学科
- 作業療法学科
- 言語聴覚療法学科
- 視能療法学科

医療技術学部

- 臨床検査学科
- 診療放射線技術学科
- 臨床工学科
- 臨床栄養学科
- 健康体育学科

医療福祉マネジメント学部

- 医療福祉経営学科
- 医療情報学科
- 医療秘書学科
- 医療福祉デザイン学科

川崎医療福祉大学